

タウンミーティング（石根地区） 開催報告

- 日 時 令和元年 8 月 9 日（金） 午後 7 時 30 分から
- 場 所 石根公民館 つばきホール
- 参加者 石根地区連合自治会長、西大頭・中大頭・東大頭・大郷・妙口上・妙口下・都谷自治会長、安井自治会、石根地区老人クラブ代表、石根地区婦人会長、石根小学校 PTA 会長、石根小学校教頭、愛護班連絡協議会長、消防団石根分団長、市長、経営戦略部長、危機管理監、福祉部長、小松総合支所長、危機管理課長、地域防災アドバイザー、長寿介護課長、シティプロモーション推進課長、小松総合支所総務課長、広聴係長
- 傍聴者 11 人
- 次第
- 1 開会
 - 2 挨拶（石根地区連合自治会長）
 - 3 挨拶（市長）
 - 4 市の主要事業について《市提案》
 - (1) 主要事業の説明(市長)
 - 5 参加者自己紹介
 - 6 地域課題①「地域防災対策」について《市提案》
 - (1) 課題等の経過等内容説明(危機管理課長、地域防災アドバイザー)
 - (2) 意見交換
 - 7 地域課題②「高齢化に伴う生活上の問題」について《地域提案》
 - (1) 地域からの提案説明（石根地区連合自治会副会長）
 - (2) 意見交換
 - 8 その他
 - 9 まとめ・閉会
 - (1) まとめ（市長）
 - (2) 挨拶(石根地区連合自治会長)

○会議録

1 挨拶

【石根地区連合自治会長】

皆さん、こんばんは。本日は、大変お忙しい中、皆さんに参加していただき感謝申し上げます。

このタウンミーティングは、西条市連合自治会と市が主催となり地域が主導して開催している。地域住民と市と一緒に地域の課題について話し合うことで、地域の声を活かし愛着の持てる地域づくりを目的としている。

地域課題について市長を交え、皆さんで話し合う機会は石根地区では初めてだと思うので、今日は第一歩として、地域の皆さんで課題を共有し今後の話し合いにつなげることを目標として皆さんの協力をいただきながら、会議を円滑に進めたい。

何ヶ月か前にテレビで、長寿日本一という話題について取り上げられていた。長野県が長寿日本一だそうで、理由の 1 つとして公民館活動が非常に活発だと言っていた。地域と行政とが一緒になりコミュニケーションをとりながら協力する姿勢が長寿に繋がり、住んでみたい地域になるのではないかと思った。より活発的な住みやすい地域づくりを目指していけたらと思う。

【市長】

皆さん、こんばんは。各自治会と団体のトップの方にお集まりいただきタウンミーティングができることを有難く、うれしく思っている。前市長も取り組んでいたが、その時とは少し形を変えながらどんなやり方がいいかまだ手探り状態でやっている。6 月 22 日からこのタウンミーティングをスタートさせているが、5 か月かけてやっていく。

連合自治会が 5 月 23 日に設立したということで、本当に有難いことだ。これからの活動は公民館を中心に展開し、公民館に行けば何かしら情報が得られ、何かしらのことが解決していく、そういう形で公民館を地域コミュニティの核としていきたい。そして、この石根地区に愛着を持

って、住みやすいと喜んでもらえるような地域づくりをしていきたい。

長寿の話が出たが、とにかく元気な姿をいつまでもという形で健康寿命の延伸も現在抱えている大きなテーマであるのでこういったことから地域づくりをどうしていくか話し合っていきたい。

平成 16 年 11 月に合併して約 15 年が経過したが、当時は、少ない負担で大きなサービスを受けられる小負担高福祉だったが、これからは中負担中福祉にしていかなくてはならない。また、「あれもこれも」という時代ではなく、「あれかこれか」にしていかなければならない。これからは、行政側から市民の皆さんに無理をお願いするケースが出てくると思うが、地域が抱える課題を解決するような行政運営をしていきたい。

今日は、限られた時間になるがよろしく願います。今日が始まりということで、またこれからしっかりと話し合いながらより良い石根づくりに邁進していきたい。

2 市の主要事業について

(1) 主要事業の説明

【市長】(参照別紙資料(1))

3 地域課題①「地域防災対策」について

(1) 課題等の経緯等内容説明

【地域防災アドバイザー】(参照別紙資料(2))

(2) 意見交換

【参加者】

震災がおきた場合、家の倒壊あるいは住むことが危なくなった状態で避難すると思うが、その時に何を持って逃げるのが一番良いかと言うと、水と食料が絶対不可欠である。いくらお金があっても、売っているところが倒壊しているかもしれない。そういった場合、自分で水や食料を持って生きるための姿勢をもってもらわなければならない。そのあたりが心配になり、昨年「防災」の勉強会をした。その時、「食料は最低 3 日分くらい用意しておいてください。」という話をしたうえで、皆さんに食料の購入希望があれば仲介すると申し上げたが一切応答がなかった。皆さん本当に食料や水を備蓄しているのか。あまり備蓄していないのではという懸念があるが、市の指導方針がどうなっているのか。実際、どのような動きをして市民へ啓発しているのか。

【危機管理課長】

住民向けの説明会を行っている。備蓄に関しては、アルファ米や専用の物があるが、市で説明しているのはローリングストック方式といい、家庭で普段使っているものを少し多めに買って置き、災害にあった場合は少し多めに買っているものを持って避難していただく。あまり食べられないアルファ米等ではなくて、普段食べなれている缶詰やツナ缶等を余分に買う。また、子どもとよく食べるスパゲッティやカップラーメン等を、少し余分に買って置き、災害時に持ち出すよう説明をしている。

【市長】

説明した時に全然認識されてないのはどうするのか。

【危機管理課長】

丁寧に説明するしか方法がないと思うので会がある時に呼んでいただき説明したい。

【市長】

自分の意識がどのレベルかによって違ってくる。今 55,000 食を MAX に市役所で備蓄している。また、大規模災害が発生した時は初めの 3 日間が大事なので、先般企業と締結を結び、公助の手が届きだす頃にキッチンカーで温かいご飯を提供できないかという話もしている。3 日間の大切さを訴え、それぞれの単位自治会でこまめに話し合いをして欲しい。

【参加者】

自治会から説明して欲しいと依頼があれば行くというスタンスに聞こえる。皆さんの防災に対する意識改善を市報等で呼びかけることや、最低限 3 日間の食料品・水を確保しておいて欲しいといった積極的な呼びかけを行政から感じられない。行政もあらゆる媒体を使ってどんどん積極的に PR していただきたい。現状のままでは前に進みにくいと思うので、前に進める力を行政にお願いしたい。

【参加者】

普段使っている食料を少し多めにとという話だが、例えばカップラーメンならお湯がいる。お湯をつくるには水と電気がある。地震が来た時、水や電気が使えないことを踏まえて非常用の食糧という物を確保しておく必要があるが、そういった事を踏まえて日頃から準備しておくことを市から啓発していただきたい。

【市長】

市からの発信はやっていかななくてはならない。待ち姿勢のように聞こえたなら申し訳ない。しかし、そうではなく地域防災について市は積極的に動いていく。ところが、皆さんの意識が、緊急性があるとあまり思っていないのではないかと感じた。話をこちらから仕掛けていくのではなく、地域から市に対して「来いよ。」と言ってもらうことが大切である。どんどん呼び掛けていただければ有難いし、市は準備しているので、話し合っていきたい。

備蓄については、過剰にありすぎるといけないので最初の3日間の一回55,000食という量を備蓄していくということを意識していく。この備蓄に、皆さんの備蓄の分を足して何とかしていきたい。いずれにしても「待ちの姿勢」ではいけないと思い、市も積極的に取り組んでいきたい。

情報発信について、情報を市報から取り入れる市民が多く、市報がひとつの情報発信の手段になっている。また、「避難準備」「避難勧告」を出しているが、逃げない方もいる。防災に対する意識を地域の皆さんまでしっかり浸透させることが大切であるので、例えば、災害を経験した方に話をさせていただく等、やっていきたい。

【参加者】

小学校の子どもたちは、防災教育について6年生を中心に毎年学習している。夏休みには「防災サミット」、そして先月は「防災キャンプ」でいろいろ体験をして、それを基に2学期に、災害時どういったことができるか、地震のしくみ、備蓄の食糧のことについて考える学習をしている。私自身も今年の1月に防災士の講習に行ってお防災士の資格をとってきた。

学校と地域の関係について、地域のことを本当に知らず、学校は学校だけで考えていることをすごく反省した。以前に石根地区で起こったような災害が起きたとき、各集会所へ集まってから避難していくのか、それともそれぞれが避難するのかさえわからない。そういった部分の情報交換ができれば助かる。

【危機管理課長】

避難の手段については地域で密に話をしてもらい、何回も話し合い避難のあり方を考えて欲しい。実際に飯岡地区や、橘地区、大町地区では、皆さん集まっていただき「地区防災計画」について前向きに進めているところもある。石根地区にも各集会所や公民館に出向いてきていただき、計画を進めて欲しい。

【経営戦略部長】

橘地区では、「橘地区防災計画」をたて、地域住民で避難所の開設の訓練をしたり、避難所の運営をしたりと始めている。他の地区の事例を参考にしながら一つ一つやれるところからやって欲しい。

【参加者】

石根地区は今から進めていきたい。

【経営戦略部長】

いきなり全部はできないので、小さいところからやっていくしかない。最初から「地区防災計画」をたてるのは大変なので、例えば、小学校で避難所の開設を試みる等、やれることからやっていったらいい。

【市長】

行政の放送が聞こえなかったから逃げなかったということがあるが、行政に命まで預けるのか。自らの命、家族の命、大切なものを守るために行政に頼りっきりになるのはいけない。もちろん行政も情報発信は行う。災害が起こった後、行政は地域の復旧のために、家族をおいてでも必死で仕事をする。聞く側からすれば、こちらから投げかけて頼むというように聞こえるかもしれないが、一緒にやるところからスタートしていただかないと話がうまく進まない。

【経営戦略部長】

防災士の地区の会で、自分たちで訓練することを考えるようになった。橘では集会所に一回集まってからその後、体育館で訓練をやっていくようにしようと徐々に進んでいき1年間やってき

た。飯岡地区では、単位自治会で訓練すると連合自治会からジュース代等で1人当たり200円出しており、グリーンハイツやオレンジハイツでは公園に1回集まる訓練をしている。大浜地区は平成16年の災害で亡くなった方もいるので、タイムラインをやろうということで、すでに自治会で想定訓練が始まっている。

4 地域課題②「高齢化に伴う生活上の問題」について

(1) 地域からの提案説明

【参加者】

自治会の役員会で、今度タウンミーティングをすることになったのだが何かご希望はないかヒアリングをした。その時に買い物がつらいという意見が出た。具体的に言うと、近隣のスーパーに買い物に行っていたが、そのスーパーが閉鎖になり、今は壬生川や氷見へ買い物に行っている。高齢者で移動手段を持たない方々は、近隣スーパーまでなら行けたが、壬生川まで行けるかというとおそらく無理である。そういう方はどうしているかという、近隣に住んでいる近親者が見るに見かねて買い物に行くついでに買ってきてもらっている。また、近親者がいない場合には、隣近所の方が気を利かして買い物をしてあげる等で何とか今やっているのが実態である。今は何とかなっているが、双方に負担がかかっている。今後さらに高齢化が進んでいくことを想定すれば、負担の軽減や、気を使わなくても自分で何とかできる方法はないものか。方法には全くこだわらないので自分が家に居ながら希望する物が手に入る手段がないか。良い例があるのならば教えていただきたいし、実際に石根地区にも運用していただきたい。

【参加者】

石根地域にはコンビニが1軒しかない。西条市は「住みやすいまち」を目指していると市長は言ったが、むしろ「住みにくいまち」になるのではないかと危惧している。難しい問題ではあるが、高齢者が歩いて行ける距離に店があると良い。自分もこれから年を取るので免許返納をした場合にどうすればいいのか。市はどのように考え、どういう手段があるのか教えていただきたい。

【市長】

店の誘致だが、経営者がどのようにジャッジするかになってくる。良い話があれば進めていきたいが、いつまでも待つことはできない。そういった中で、社会福祉協議会にお願いしウェブ注文でうまく回せないかと、フジと連携を図ろうと挑戦したが、商売にならないと却下された。

地域が抱える「買い物」をどうしたらよいかということで、高齢者の買い物ツアーを試験的に実施した。まず、公民館・各集会所からジャンボタクシーに乗り合わせてフジグランに買い物に行き、到着したらみんなで会食、さらにはグループで買い物を実施する。民生委員や社協の職員等が交流をしながら買い物をした後ジャンボタクシーで帰った。好評で、こういった企画を定期的にやってほしいということだった。世話をした方の声としては、「フジグランではあまり興味を示さないだろうと思っていたが予想以上の人が参加してくれた。」とのことだった。

石根地区の課題を解決するために自治会長だけでなく、若手の力等を借りて課題解決をして欲しい。橘はスタートしており、もう少し先になるが一括交付金のような形で予算や権限を渡すといったことで地域が抱えている課題の買い物難民をどうするかを考えている。店を呼び込んでいきたいが、移動販売、ウェブあるいはドローンで運ぶといった他の手段もある。

丹原ではデマンド交通をテスト的にやっている。10年後には必要になるが今はいらぬといった問題があり、使用してくれる人がいない。しかし、例えばこの形が集会所を回りながら病院に行ったり、商店に行ったり、銀行に行ったり、農協に行ったり、周ちゃんに行ったりというコースが組めると非常に足の確保という点ではいいと思う。誘致をするための働きかけはしていくが、店側の経営判断ということになるが、石根に合った形で相談していきたい。移動販売の生協は5軒以上集まれば来てくれると思うが、こういったことをいつまでできるかといったことも含めて、いろいろな案を考えていきたい。買い物難民という言葉は好きではないが、そういう買い物弱者を良いアイデアで少しでも救済していきたい。

【参加者】

地域における買い物難民に対して、例えばウェブを使って買い物ができないかという意見が出たが、生鮮食料品以外の物はネットで購入して翌日には宅配で届けてもらえ、物によればお店で買うよりずいぶん安く買える。しかし、買い物難民といわれる方の多くはご老人であり、ウェブが使えるような環境にない。従って、パソコンができる環境を整えネットで買い物ができるよう

専門員を派遣してサポートしていく必要がある。現金決済、カード決済等のサポートも必要になってくる。そういった環境を整えることが過疎地域の買い物難民の対策になるのではないかと。

【市長】

パソコンを敬遠する高齢者がいるが、この数十年の間にパソコンを利用する世代の環境がずいぶん変わってくると思う。本当は店へ足を運ぶ方が気も晴れて、そしていろいろな物を見て、話ができるというのが求める姿ではないかと思う。

スマホあるいはパソコンから注文して宅配による受取りを行っている企業もある。これは情報発信ができてなかったのであれば反省しながら、少しでも解消に役立てたいと思っている。ソフトの部分という話になったが、高齢者の皆さんにどのようなアプローチをしていくかということにもエネルギーをかけていき、どんな方法があるか研究をしながら買い物弱者に対する取り組みについて考えていきたい。

5 まとめ・閉会

【市長】

これが始まりということで、これに懲りずにいろいろな場面で皆さんから声をよせていただければ、その時に話をしていきたい。石根地区が抱える課題の中には、行政だけではなかなか解決できないこともあるので、自治体や婦人会、PTA、消防の力を借りながら協働のまちづくりをしていきたい。そして行政も一緒になってやっていく姿勢でこれからも望んでいきたい。そういったことで「西条に住んで良かった。」あるいは「石根に住んで良かった。」というふうについてもらえるようにしていきたい。叱咤激励も含めてよろしく願います。本当に貴重な時間をいただき誠に感謝申し上げます。

【石根地区連合自治会長】

本日はお忙しい中皆さんに出席いただき感謝申し上げます。本日のタウンミーティング、前半は市長から西条市の主要事業の現状説明等があり、非常に厳しく難しい問題がたくさんある中で、ワクワク度日本一のまちの実現に向けて楽しみなことも出てきた。そして地域課題として地域防災について話し合ったが、これは大変熱が入りそれぞれの皆さんの中にも感じるものがあったと思う。そして高齢化に伴う生活上の問題について議論した。石根連合自治会としても今後の議論につなげていきたい。市長が申し上げたとおり、行政と地域が協力して住みやすい地域づくりをめざしていけたらと思う。本日は、感謝申し上げます。

(閉会)

<タウンミーティングの様子>

